



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所(二日町)
在宅療養支援有床診療所(浦佐)



もえぎ

門山妙子 さん書

10

Vol. 377
2023/10.15



志太 カツ 様
103歳

高橋 キクリ 様
105歳

関口 信子 様
96歳

ハイマートご長寿のお祝い
撮影地:ハイマートハイム・島田
撮影者:ハイマート職員



地域の皆さまへ 恒例のイベントのお知らせです!
第15回 秋の感謝祭
10月22日(日) 10:00~14:00

当日入浴回数券販売
1シート6回分
通常2,600円(税込)
特別価格 **2,000円(税込)**
※当日お1人様、回数券を5シート以上購入でガラポン1回抽選!

入浴回数券の事前予約受付中
10/21(土) 20:30まで受付中
※引換えは10月23日~11月末まで回数券と交換致します。
*感染予防対策を講じた上で開催致します。また、内容が変更する場合がございます。
ざくり温泉健康館 南魚沼市宮1119 ☎025-774-2802

- 新型コロナXBB対応ワクチン/笑顔になる為に.....2
- 第13回日本医療マネジメント学会
新潟県支部学術集会参加報告.....3
- 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク
IN NAGOYA 2023 第2回 全国の集い.....4,5
- 黒岩卓夫一代記.....6
- 書籍紹介/コラム.....7
- 事業所紹介/利用者紹介/
診療所からのお知らせ/編集後記.....8



新型コロナXBB対応ワクチンは 現在最多の新株EG5にも効くの??

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志



先月から新型コロナXBB対応ワクチンによる秋接種がスタートした。

国立感染症研究所によると、9月3日時点で国内最多の変異株はXBBから派生したEG5.1系で約34%。XBB.1系は約20%とEG5.1系への置き換わりが進んでいる。EG5.1系は感染力、毒性（重症度）ともXBB.1系と変わりはないとのこと。

アメリカ疾病対策センター（CDC）は、先月12日、EG5.1系にもXBB対応ワクチンが有効であり、生後6か月以上を対象とした接種を『推奨』すると発表した。また、CDCは『自分自身と愛する人を守るためにも接種して欲しい』ともコメントしている。

一方で、ワクチンの後遺症で苦しんでいる人も一定数おり、『新型コロナワクチン後遺症、患者の会』は『軽々しく接種を推し進めるべきではない』とコメントしている。また、新型コロナワクチン接種の即時中止などを求める『全国有志医師の会』という団体がある。この団体は、新型コロナワクチンの有効性と安全性に懸念があると訴えている。

新型コロナワクチン接種後10年、20年の経過で何らかの健康被害が現れる可能性は否定できないが、長期経過後だと因果関係の証明は極めて困難と言わざるを得ない。

接種するかどうかは、最新の専門家の意見に耳を傾け、その意見の信頼性を見極めつつ、自分にとって何が最も大切か？自分にとってメリットがデメリットより上回るか？をしっかりと考えて決断していただきたい。



健康で、一步を踏み出すために

萌気園浦佐栄養調理室
室長 久川 真美

現在、浦佐栄養調理室はスタッフ4名です。

リハビリセンター、たもんの郷、ハイマートハイムの利用者さんと萌気職員の食事を提供しています。

献立は、旬の食材を使ったバリエーションに富んだものとなっています。

月に一度は、皆さんに“わくわく”していただけるようにイベント食を企画しています。

食事は自分の足で歩いていく為の大切な行為です。

全ての利用者さん、職員が **わくわく 満足 笑顔** になれる様、スタッフ一同 熱意を込めて取組中！！

安全で美味しい食事提供を追求していきます。

あなたの一步を応援します。

たもんの郷3周年
浦佐診療所、リハビリセンター10周年記念弁当
皆さん笑顔で 召し上がって頂きました。





命に限りのある人にどう向き合う??

第13回日本医療マネジメント学会新潟県支部学術集会
in朱鷺メッセ参加報告

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志

先月、上記集会にシンポジストとして参加した。26年前に発足した日本医療マネジメント学会は医療の質の向上を求めて医療福祉の連携、安全管理等々、医療福祉の現場における各種の課題の研究、提案を行い、成果を上げてきた伝統のある学会である。今回の大会テーマは『在宅医療をスムーズにおこなうために』。県医師会から登壇を依頼された。

シンポジウムでは、在宅医療における地域連携について、医師（私）、訪問看護師、歯科医師、ケアマネから発表があった。県内各地の共通の課題として既存の情報通信技術（ICT）連携が未成熟であるという点が示された。少子高齢化、人口減少による医療・介護人材不足が叫ばれる中、ICTによる効率的な連携推進が地域包括ケア醸成の一助となることは言うまでもない。

横浜市のみぐみ在宅クリニック院長、小澤竹俊先生による基調講演では、不治の病気で命が限られた人にどう向き合えば良いか？をロールプレイを交えて教えていただいた。『その人から逃げずに向き合おうとする姿勢が大事』『苦しんでいる人は、自分の苦しみを分かってくれる人がいると嬉しい』『その人から見て、分かってくれる人になるために聴く』『その人の頑張れる理由・支えに気づき、援助する』『苦しむ人の力になれなくても、そばに居るだけでもいい』『死期がせまり会話不能となった状態でも、その人の人生を振り返り最期に大切な人に伝えたい言葉が何であるかを推察する』。医療・介護などの専門職だけではなく他職種・一般市民もこの精神（小澤先生はホスピスマインドと呼ぶ）を理解し実践できれば、地域の多様な現場で『死の恐怖・不安』『存在価値の喪失』などからくる『霊的苦痛』により苦しむ人の苦痛緩和が成される。『人生の最期を穏やかに…』を実現するための対話方法、姿勢、精神を教えていただいた。



日本マネジメント学会学術集会に参加して

萌気園二日町診療所
梶山 美恵子

9月9日「在宅医療をスムーズに行うために」をテーマに、多職種の演者の発表と、黒岩理事長の「過疎地域における在宅医療」の発表をお聞きしました。

ずずらんの会の発足の経緯を知り、在宅医療の質を高めようとする理事長の志と、現在いくつかの課題を抱えながらも進んで行くという思いを感じた発表でした。

他にも、「ユニバーサルホスピスマインド」という内容で小澤竹俊先生の講演がありました。「自分の苦しみをわかってくれる人がいるとうれしい」をキーワードに、相手の言葉を反復して聞き、相手の想いを理解しようとする姿勢を持ち続けることで、相手の思いに近づくことができるということでした。

7時間かけて行う講義、実践を数分間に凝縮しての講演なので、簡単に理解することは難しいことでしたが、とにかく、問題を解決しようという思いで相手の話を聞こうとしている自分の傾向に気づき、解決できない問題があっても、相手が笑顔になるように話を聞くことは大切な手法だと思いました。

行き帰りの車中、萌気会イケメントップ2の楽しい話術に、眠くもならず、大笑いしながら終えた研修でした。



名古屋城

地域共生を支える 医療・介護 IN NAGOYA 2023

愛と平和がつく
～ともに暮らし、ともに

9月17(日)・18(月・祝)、名古屋市のウインクあいち(愛知県)
数多くのシンポジウムや記念講演が行われました。萌気会から



スポンサードセミナー6

【座長】黒岩巖志(医療法人社団萌気会 萌気園浦佐診療所 院長)

【演者】石賀丈士(医療法人SIRIUS いしが在宅ケアクリニック 院長)

がんを予防する食生活から終末期の食支援まで
～4000名以上を在宅で看取った経験から～
を聴講して。

事務局
田中 伊織

石賀先生による「①当院の紹介②がんを予防する食生活③終末期の食支援④未来のためにできること」4つのテーマを60分という短い時間に凝縮した講演でした。

④未来のためにできることでは、未来を担う子ども(小中学生)たちへ「いのちの教育」を行っている取り組みについてのお話でした。

何で人を殺してはいけないの?人を殺してみたい!人の死を見たい!という願望がある異常な世の中になってきているのは、死を遠ざけてきた大人たちが原因である。現代は在宅での看取りや自然死にかかわる機会を奪われ、「死ぬ」ということが理解できない子ども達が増えているとの説明でした。

石賀先生のお子さんは、3～5歳の間は何度も往診に同行していたそうです。すると、「あのおじいちゃん、もうあと1週間くらいで亡くなるね。」などと言うようになったそうです。小さな子どもでも「いのちの教育」の機会があれば死を理解できるとのことでした。やはり巖志理事長もお子さんを訪問や病棟回診に同行させていました。次世代への責任として在宅での看取りや自然死を普及させるには、看取りの現場、死の現場に子ども達が参加し、命というものを学ばなければならないことを改めて思いました。



「次の一手を考えよう～利用者満足度アンケートから～」で私たちが発表した内容が、フォローアップ賞という素晴らしい賞をいただくことができました。リハビリセンターの皆で話し合い、決定し、実践しているものであり、リハビリセンターの「新たな取り組み」が評価されたものだと思います。来年の全国ネットワークで、リハビリセンターのその後を発表できるよう、リハビリセンター一丸となり、日々の業務に精一杯の力を注いでいきたいと思えます。

次の一手を考えよう ～利用者満足度アンケートから～



通所リハビリセンター浦佐
桐生 愛

通所リハビリセンター浦佐
米山 光恵



今回、全国ネットワーク名古屋大会に参加して、利用者に行ったアンケートから、リハビリセンター職員全員で話し合い、プロテインバー、プラスワン体操等を新たな取り組みとして実践していく内容を発表しました。実践内容が評価されフォローアップ賞を受賞することができ嬉しかったです。これからも、リハビリセンター全員で力を合わせて頑張っていきたいと思えます。



事務局長
上村 光男

名古屋にて様々な活動やアイデアに触れ、大変良い刺激になりました。南魚沼市での地域活動に活かしていきたいと思えます。



しょうたき萌気たもんの郷
萩原 哲也

久しぶりの発表に緊張しました。他の方の発表を聞きいろいろと勉強になりました。

④ みんなの冷蔵庫から地域に支援の輪を広げたい
～「みんなの冷蔵庫」「子ども食堂」を運営しています～

感染症蔓延時における小規模多機能の役割について考える
～新型コロナウイルス感染への課題～

介護・市民全国ネットワーク 第2回 全国の集い

地域共存社会
を癒し、ともに生きる～

県産業労働センター)において第2回全国の集いが開催され、
も法人の様々な取り組みについて発信して参りました。



ポスター



我々は『リハレンジャー!』Vol.2 ～取り組み開始から1年飯後の現在～

萌気園訪問リハビリテーション りらいふ
阿部 友恵

この度、昨年の大会にて当法人の作業療法士がフォローアップ賞を受賞した「リハレンジャー」のその後の活動について、第二弾を発表する機会を頂きました。

「リハレンジャー」とは法人内のリハ職と介護職のより実践的な連携を目指し、3年前にリハ職が立ち上げた取り組みの一つです。人前で話すのが大の苦手な私ですが、職場の皆さんに協力してもらいながら全国場で発表することができ、他県の方々から「取り組みに興味を持った」と話しかけてもらえた時は、とても嬉しく「また頑張っていこう」と充実した気持ちになりました。

講演では「愛と平和」をテーマに、市民の方々や医師、ジャーナリストなど幅広い立場からのお話を聞く事ができ、同じ時代を生きている人々の様々な生活や取り組みに感動し、涙を流す場面が何度もありました。日常から少し離れ、法人の皆さんとの2泊3日はとても楽しく有意義な時間となりました。



「萌気園あやめ診療所 生活サポート外来」 —医療（発達障害領域）におけるニッチビジネスの軌跡—

萌気園あやめ診療所
鈴木 美智子

地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワークに参加させていただきました。嬉しかったのは、優しく明瞭な語りの玉置妙憂さんの「スピリチュアルケア」についての講演を聞いたことです。医療関係の大会に、非科学的・目に見えない世界・精神や心の在り方についての講座があり、沢山の医師・医療技術者も聴講していました。物的に飽和した現代、次に求められるものは心的な満足であるのかもしれませんが。

自身の行動達成としては、生活サポート外来について伝達できたことです。法人理念に沿って心の支援にも取り組んでいることを前面に出したく、発表の題名は「生活サポート外来の軌跡」と直接的表現にしました。“法人の新たな取り組みを抄録に掲載し、伝達”を念頭に作成しました。再度発表のチャンスがあれば、“医療・介護・市民の”大会なので、幅広い職域や立場及び年代や意識した“内容”で挑戦したいと考えています。

このような貴重な大会に参加させていただいたことに感謝しています。地域に還元していきたいです。



会場1階ロビーのポスター前にて
参加者全員での集合写真



発表を終え緊張から
解放されての懇親会でした



炭火焼とワインのお店にて
名古屋名物の手羽先は
とても美味しくお酒が進みました



第35話
健康どくだみ茶



薬草棟



工夫するんだな
うちの薬草部と
相談するよ

いや、ドクダミ
だけじゃダメんだ…



この前の
どくだみ茶か？

先生、
薬草茶では
わかるらう？

おら、自分で
こしらえて
飲んでるがですて



ドクダミにシソとか
ゲンノショウコとか
ツククサも
混ぜたがだ

もつちって
研究して
みようて



おお！
こらいい味だ
ハーブ茶なんて
より重みがあつて
いいな

どら、
なじだい…



お前がた、
おらのドクダミ茶
飲んでみ



ちつと違うども、
色々試して
みようかの

ハーブ茶つて
ことだかや？



どくだみ茶、
予想はして
いましたよ

公立病院は
物を売つて
収入をあげるの…

先生
いつもお世話に
なります
実は困つたことが



どくだみ茶
体をキレイト!!
動脈硬化に
効くよ



こら、
うまいやと
いさそりですや



え！
東京のデパートで

昔の繋がりで東京
のデパートしよに
話したら、
こないさつちまで
見に来てくれてそー



草楽堂
病院がダメだて
がだば、おらたに
やらせて下さい

元来お店を
やつており、今は
患者のHさんが
提案した

薬草で皆元気になったことは、その後の「健康やまどぴあ・都市と農村を結ぶ共生ビジネス」の出発になりました。この「健康ドクダミ茶」から漢方専門外来へ発展します。そこへ有機農業グループと浦佐温泉旅館グループの地元食と薬草風呂、そして人間ドックが合体して画期的な「健康やまどぴあ」ビジネスが全国に向かって走り出しました。このモデルは今でも生きています。土台は豪雪地域の多様な自然そのものでした。

書籍紹介

「52ヘルツのクジラたち」

著者：町田 そのこ

著者の経歴：

町田 そのこ(まちだ そのこ) 小説家

1980年生まれ。2016年、「カメルーンの青い魚」で新潮社が主催する第15回女による女のためのR-18文学賞の大賞を受賞する。2017年に同作を含む「夜空に泳ぐチョコレートグラミー」で小説家デビュー。2021年、「52ヘルツのクジラたち」で本屋大賞を受賞した。その他の著作として、ぎよらん(2018年)、うつくしが丘の不幸の家(2019年)、コンビニ兄弟ーテンダネス門司港こがね村店ー(2020年)等がある。



本のあらすじ

「52ヘルツのクジラ」とは、他のクジラが聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で1頭だけのクジラ。たくさんの仲間がいるはずなのに何も届かない、何も届けられない。その為、世界で一番孤独だと言われている。

「わたしは、あんたの誰にも届かない52ヘルツの声を聴くよ」

自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴瑚と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれていた少年。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれる。



◆感想◆

テレビ番組で、本屋大賞第1位として紹介されていたのを見て興味を持ちました。

作中では児童虐待を中心に、介護、母子家庭、トランスジェンダー、自殺といった様々な社会問題について取り上げられていました。私は特に児童虐待について深く考えさせられました。人の心を傷付け壊すのも人。人の心を癒し救うのも人。みんな同じ人間なのに…。親自身の心が壊れているのだと感じました。

眼前の辛さや悲しみから逃れたくても、その意思を周囲の人に伝えられないまま苦しみ続けざるを得ない状況にある人の、助けを求める「声」を聞くことの大切さを改めて思い知らされました。

次は「カメルーンの青い魚」も読んでみたいと思っています。



萌気園二日町診療所「曼陀羅華」
看護師 中村 久美子

安心コラム

金子兜太

井口時男さんという人を御存知だろうか。1953年六日町生れ。文芸評論家であり、金子兜太さんのお弟子になっている。今年7月3日池田記念美術館のロビーで講演会があった。北方文学(榎本宗俊も会員)が主催した。金子兜太は、ただの俳人ではなく、俳句を通して戦後の日本思想界の前衛だった。

私が尊敬する吉本隆明(詩人・思想家)とも共有することが多い。特に親鸞の往相と還相の思想に関してだった。兜太は50歳を過ぎてから自己革命を志し、還相として後衛の立場も築いた。その根拠は日常と大衆だった。また戦後文芸界の前衛だった寺山修司も高く評価している。寺山の歌「マッチ擦るつかの間海の霧深し 身捨つるほどの祖国はありや」がある。井口時男著「金子兜太」より。



Dr. T. Kuroiwa



事業所紹介

萌気園浦佐有料老人ホーム「ハイマートハイム・島田」

8月16日に、8月にお誕生日を迎えられたご長寿の方々のお祝いをしました。

この日はハイマート皆で夏の盆踊りを楽しみ、特大のバースデーケーキでお祝いをしました。

お三方とも、大勢の人からの祝福の言葉に、「ありがとう」と笑顔で感謝の思いを口にされていました。



関口 信子様 96歳



高橋 キクノ様 105歳



志太 カツ様 103歳

うちの利用者さん

小規模多機能ホーム「さくりの郷」

ヨシノさんの得意なことのひとつが針仕事です。なんでも小さな頃から家族のためにほつれた物を直したりボタンを付け直したりされてきたとの事です。

さくりの郷に着き一息休んだと思ったらすぐにお仕事開始。ひと針ひと針丁寧に縫っていきます。しかも素早い。今まで布巾や雑巾、洗身タオル、足ふきマットなどを縫って頂きました。

そんなヨシノさんにも苦手なことがあります。それは…針に糸を通すこと。唯一そこだけ職員が手伝えることなのです。

色々と縫物をして頂きありがとうございます。これからも末永くよろしく願いいたします。



勝又 ヨシノ様

浦佐診療所からのお知らせ

浦佐巡回バス 便数変更のお知らせ

浦佐診療所発10:45～浦佐診療所着11:10

浦佐診療所発11:15～浦佐診療所着11:40

上記の便を10月1日より廃止いたしました。

ご不便をお掛けいたしますが、ご理解ご協力のほど宜しくお願いします。



編集後記

萌気園老人ホーム すみれ草
小宮山 典子

長く続いた暑さから解放されやっとなごしくなってきました。
すみれ草では4年ぶりに歌や踊りのボランティアさんを迎えられるようになり、利用者さんの笑顔をたくさん見られるようになったことに大変感動しました。他者との交流は利用者さんにとってとても良い刺激になるのだなと改めて思われました。

これから寒くなってきますが、旬の美味しいものを味わって、体調を崩さないように過ごしましょう。

今月号も最後までお読みいただきありがとうございました。

